

動画でわかったこと

最近は外来で「スマホで動画を見て下さい」という訴えが時々あります。

以前より機会が増えました。

1歳未満から3歳までの小児が多いです。

一番多いのは「ゼーゼーいっている」「夜の呼吸が苦しそう」

「母乳が飲みづらそう」という訴えです。

外来で診察すると分かりますが、大半が『鼻づまり』です。

ウイルス性鼻炎（鼻カゼ）をひいて、鼻腔がつまってゼーゼーして呼吸が苦しくなっています。

鼻汁吸引をして麻黄湯などを少しなめると呼吸は良くなり、ゼーゼーが消えます。

動画を見て「これはすぐ精密検査が必要です」となることがあります。

過去に数名ありましたが、「点頭てんかん（WEST症候群）」です。

全身性、左右対称性で、頸部や体幹、四肢に1秒ほどの筋肉の収縮を認めます。

頭部が前屈（点頭）します。

これを何度も繰り返します。

脳波検査が必要になります。

さらに発症早期の治療開始が大切です。

発作の再現率が高く、知能予後も不良なことが多いです。



お知らせ

休診のお知らせ

9月 4日(水), 11日(水), 14日(土)

都合により休診します

岐阜市の
漢方外来

9月 7日(土)

28日(土)

時間:14:00-17:30

場所:中島小児科(岐阜市健康東町2-1)

※すべて「院外処方」です。

消化器疾患の症状（小児・大人共通です）

小児は自ら訴えることが少ないので、吐物や排泄物をしっかりと観察することが大切です。

お母さんが赤ちゃん、乳幼児の便を一番よく見ています。ですから、「今日の便は臭い」とか「色がおかしい」となれば、異常であろう（正常ではない）可能性が高いわけです。



①嘔吐

消化管閉塞が原因で嘔吐が生じる場合は、十二指腸の下部より肛門側の閉塞では吐物に黄色の胆汁が混じるので、それより口側での閉塞と区別できます。

②下痢

食べたものがそのまま出ているか、膿や血液が含まれていないかなどを観察します。

大部分の水分は小腸で吸収されるので、小腸疾患（まれです）は大量の下痢の原因となります。大腸疾患の下痢は量的に少ないです。

③便秘

大腸の蠕動（ぜんどう）が弱くて直腸に便がたまってこない、便が乾燥して排便反射が生じにくくなります。

硬くて大量の便は、排便時の疼痛を伴うことがあるので、ますます排便しなくなり、小児性便秘の悪循環に陥ります。

④腹痛

一般に疼痛は2種類の感覚神経で伝達されます。

皮膚や筋肉からの感覚神経のA線維は鋭い局在性の痛みを伝達します。内臓や腹膜からのC線維は局在のはっきりしない鈍痛を伝達します。

※腹痛は臨牀的には評価が難しいことがあります。

胃腸カゼと診断した数時間後、急性虫垂炎を発症し、夜間緊急手術を行った症例の経験をしました。

また、虫垂炎と診断され外科で手術をしようとしていた最中に、突然の呼吸停止、生命の危険に及んだ腸捻転も目の当たりにしました。

腹痛の診断には結構氣を使うことがあります。

⑤消化管出血

食道、胃、十二指腸からの出血は吐血となります。

血液が胃酸や小腸の消化液に触れると急速にコーヒー様となります。これが吐物に混じります。

潜血便は、出血部位が肛門に近いか、量が多いことを示します。

胃・十二指腸、空腸などの出血はタール便となります。